

SYLLABUS

シ ラ バ ス

令和8年度後期

歯科衛生士科 1年次

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

歯科衛生士科 教育課程（令和8年度後期）

1年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
生物学	2	30	1	前期	歯科保健指導論Ⅵ	1	30	3	後期
化学	1	15	1	前期	栄養指導	2	30	2	前期
心理学	1	15	1	前期	歯科診療補助論Ⅰ	1	15	1	前期
倫理学	1	15	1	前期	歯科診療補助演習Ⅰ	2	30	1	前期
歯科英語	1	15	1	後期	歯科診療補助論Ⅱ	1	15	1	後期
保健体育	2	30	1	前期	歯科診療補助演習Ⅱ	2	30	1	後期
キャリアデザインⅠ	1	15	1	前期	歯科診療補助論Ⅲ	1	15	2	前期
キャリアデザインⅡ	1	15	3	後期	歯科診療補助演習Ⅲ	2	30	2	前期
情報処理	2	30	1	前期	歯科診療補助論Ⅳ	1	30	2	後期
解剖学	2	30	1	前期	歯科診療補助論Ⅴ	1	15	3	前期
生理学	2	30	1	前期	歯科材料学	1	15	1	後期
口腔解剖学	2	30	1	前期	医療安全	1	15	1	前期
口腔生理学	1	15	1	後期	臨床検査	1	15	2	前期
口腔組織発生学	1	15	1	後期	臨地・臨床実習Ⅰ	1	45	1	後期
生化学・口腔生化学	1	15	1	後期	臨地・臨床実習Ⅱ	9	405	2	後期
微生物学・口腔微生物学	2	30	1	前期	臨地・臨床実習Ⅲ	10	450	3	前期
病理学・口腔病理学	2	30	1	後期	摂食嚥下	2	30	2	前期
薬理学・歯科薬理学	2	30	1	後期	チーム医療	2	30	2	前期
衛生・公衆衛生	2	30	1	前期	関連医学・医学概論	2	30	2	前期
口腔衛生学	2	30	1	前期	看護学	1	15	2	前期
情報統計学	2	30	1	後期	医療事務・受付	1	15	3	後期
衛生行政	2	30	2	前期	歯科衛生学演習Ⅰ	1	15	1	前期
歯科衛生士概論	1	15	1	前期	歯科衛生学演習Ⅱ	1	30	1	後期
歯科臨床概論	1	15	1	前期	歯科衛生学演習Ⅲ	1	30	2	前期
保存修復学	1	15	1	後期	歯科衛生学演習Ⅳ	1	15	2	後期
歯内療法学	1	15	1	後期	歯科衛生学演習Ⅴ	1	15	3	前期
歯周病学	1	15	1	後期	総合歯科演習	1	30	3	後期
歯科補綴学	2	30	1	後期	歯科衛生学特論Ⅰ	2	60	3	後期
小児歯科学	2	30	1	後期	歯科衛生学特論Ⅱ	1	30	3	後期
障害者歯科学	1	15	1	後期	歯科衛生学特論Ⅲ	1	30	3	前期
歯科矯正学	2	30	1	後期	歯科衛生学特論Ⅳ	1	30	3	後期
口腔外科学	2	30	2	前期	歯科衛生学特論Ⅴ	1	30	3	後期
歯科麻酔学	1	15	2	前期	歯科衛生学特論Ⅵ	1	30	3	後期
高齢者歯科学	2	30	2	前期					
歯科放射線学	1	15	2	前期					
先端医療	1	15	2	前期					
歯周病予防処置論Ⅰ	1	15	1	前期					
歯周病予防処置演習Ⅰ	1	30	1	前期					
歯周病予防処置論Ⅱ	1	15	1	後期					
歯周病予防処置演習Ⅱ	1	30	1	後期					
歯周病予防処置論Ⅲ	1	15	2	前期					
歯周病予防処置演習Ⅲ	1	30	2	前期					
歯周病予防処置論Ⅳ	1	30	2	後期					
歯周病予防処置論Ⅴ	1	15	3	前期					
う蝕予防処置論	1	30	2	前期					
歯科保健指導論Ⅰ	1	30	1	前期					
歯科保健指導論Ⅱ	1	30	1	後期					
歯科保健指導論Ⅲ	1	30	2	前期					
歯科保健指導論Ⅳ	1	30	2	後期					
歯科保健指導論Ⅴ	1	30	3	前期					

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科英語		講義	野口 扶美江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 易しい外国語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 2. 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。 3. 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。 4. 外国語による日常会話を聞いて内容を理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	① Making an Appointment by Telephone // 重要単語 ① 歯科医療に携わる者 ② 歯科学			
2	② Requests for Medicine //重要単語 ③検査			
3	③ Emergency Appointments // 重要単語 ④ 痛みの種類			
4	④ National Health Insurance // 重要単語 ⑤ 全身疾患			
5	⑤ Asking the Patient to Describe Symptoms // 重要単語 ⑥ 歯科疾患			
6	⑥ Asking the Medical History // 重要単語 ⑦ 歯科治療			
7	⑦ Periodontal Disease Part 1			
8	⑦ Periodontal Disease Part 2			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	単語を覚え、英文を正確に理解できる事を評価する。		
レポート・課題				
小テスト	40%	各ユニット＋重要単語の単語テスト		
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科英語		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
英和辞書必携！（紙 ○ / 電子辞書 ○ / スマホ ×）				

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔生理学		講義・演習	石井 準之助・今川 由佳	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
顔面、口腔およびその周辺組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 口腔感覚の特徴と神経機構を説明できる。		5. 発声の仕組みや構音のメカニズムを説明できる。		
2. 味覚や嗅覚の仕組みについて説明できる。		6. 唾液の成分や作用と分泌機構を概説できる。		
3. 下顎の運動や反射、咀嚼を説明できる。		7. 唾液分泌量の測定方法を学び唾液分泌の状態を把握する。		
4. 嚥下や嘔吐の意義と神経機構について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	口腔顔面の感覚の分類と神経機構およびその特徴			(石井)
2	唾液の分泌機構、性状、成分と生理作用や疾患			(石井)
3	味覚や嗅覚の役割、受容機構ならびに加齢的变化と障害			(石井)
4	下顎位と下顎運動および顎反射。咀嚼運動と咀嚼能力			(石井)
5	摂食嚥下の分類と嘔吐			(石井)
6	発声機構、声の生成、構音のメカニズムと障害の原因			(石井)
7	唾液の分泌を理解する実習 1		基礎実習室	(今川)
8	唾液の分泌を理解する実習 2		基礎実習室	(今川)
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%			
レポート・課題	10%	唾液の分泌を理解する実習のレポート 評価基準は別途示す		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔組織発生学		講義・演習	本間 志保・小林 正樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
顔面、口腔およびその周辺組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 顔面と口腔の発生を概説できる。 2. 歯と歯周組織の発生を概説できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯および歯周組織の構造と機能（1）エナメル質、象牙質歯髄複合体（本間）			
2	歯および歯周組織の構造と機能（2）歯周組織（本間）			
3	顔面と口腔の発生（本間）			
4	歯と歯周組織の発生（本間）			
5	顕微鏡画像スケッチ実習（1）口腔組織の発生（本間）			
6	顕微鏡画像スケッチ実習（2）歯と歯周組織（本間）			
7	歯牙スケッチ（1）（小林）			
8	歯牙スケッチ（2）（小林）			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%			
レポート・課題	40%	授業内のスケッチ（本間20％、評価基準は別途示す）、歯型彫刻で歯の形態の理解度を評価する（小林20％評価基準は別途示す）		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生化学・口腔生化学		講義	長谷川 菜摘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。 口腔における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 生体の構成要素を説明できる。		5. 歯と歯周組織の生化学を理解する。		
2. 生体における化学反応を説明できる。		6. 硬組織の生化学を理解する。		
3. エネルギー代謝を説明できる。		7. 唾液の生化学を理解する。		
4. 物質の代謝を説明できる。		8. デンタルプラークの生化学を理解する。		
授業計画				
回	内容			
1	人体の構成要素			
2	人体における化学反応			
3	糖質・脂質・タンパク質の代謝 1			
4	糖質・脂質・タンパク質の代謝 2			
5	歯と歯周組織の生化学			
6	硬組織の生化学			
7	唾液の生化学			
8	プラークの生化学：う歯・歯周病発症機構			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	基本的知識の習得度とともに知識を基盤にした応用能力を判定し、総合的に評価する。		
レポート・課題	30%	毎回の講義内で配布する課題（穴埋め形式）の提出（評価基準は別途示す）		
小テスト				
その他	10%	授業への取り組み度を評価する。（評価基準は別途示す）		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学・口腔病理学		講義	重岡 学	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
【病理学総論】 病気の原因と発生機序、それに伴う形態学的変化の体系の基礎を講義する。 【口腔病理学】 顎口腔に見出される主要な疾病に関する講義を行う。				
授業の到達目標				
【病理学総論】 様々な病的刺激(病因)に対して惹起される生体反応が遺伝性疾患と奇形、循環障害、代謝障害と退行性病変、増殖と修復、炎症と免疫反応および腫瘍に分類されることを理解し、それぞれの形態学的特徴と病理発生が説明できる。		【口腔病理学】 ヒトの顎口腔に発生する様々な疾患の病因、病理発生、病理形態学的変化を病理学総論の概念に従って説明することができる。主要な病変については臨床との関係を重視しつつ把握する。		
授業計画				
回	内容			
1	Ⅰ編 病理学総論 1章・2章（病理学序論と病因論／遺伝性疾患と奇形）			
2	Ⅰ編 病理学総論 3章（循環障害）			
3	Ⅰ編 病理学総論 4章・5章（代謝障害と退行性病変／増殖と修復）			
4	Ⅰ編 病理学総論 6章（炎症と免疫応答）			
5	Ⅰ編 病理学総論 7章（腫瘍）			
6	Ⅱ編 口腔病理学 1章・2章（歯の発育異常／歯の損傷と着色・付着物）			
7	Ⅱ編 口腔病理学 3章（う蝕）			
8	Ⅱ編 口腔病理学 4章（象牙質・歯髄複合体の病態）			
9	Ⅱ編 口腔病理学 5章（歯周組織の病態）			
10	Ⅱ編 口腔病理学 6章（口腔粘膜の病変）			
11	Ⅱ編 口腔病理学 7章・8章（口腔領域の嚢胞と腫瘍／口腔癌）①			
12	Ⅱ編 口腔病理学 7章・8章（口腔領域の嚢胞と腫瘍／口腔癌）②			
13	Ⅱ編 口腔病理学 9章・10章（顎骨の病変／唾液腺の病変）			
14	Ⅱ編 口腔病理学 11章・12章（口腔の奇形／口腔組織の加齢変化）			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	授業中の無断撮影、無断録音・録画は禁止する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
薬理学・歯科薬理学		講義	大石 美恵	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 医療と薬物について説明できる。 2. 身体と薬物について説明できる。 3. 医薬品の分類を説明できる。 4. 薬物の取り扱いを説明できる。		5. 主な薬の薬理作用, 作用機序, 副作用を説明できる。 6. 歯・歯髄疾患と薬について説明できる。 7. 歯周疾患と薬について説明できる。 8. 服薬に関する一般的事項を説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	総論1 薬物の作用 薬物動態			
2	総論2 薬物の適用方法の種類と特徴 薬物の作用に影響を与える要因 薬物の副作用、有害作用			
3	総論3 医薬品を適用する際の注意 薬物の取り扱い 薬物と法律・薬物と医薬品			
4	各論1 ビタミンとホルモン 末梢神経系に作用する薬物			
5	各論2 中枢神経系に作用する薬物			
6	各論3 循環器系に作用する薬物 腎臓に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物			
7	各論4 消化器系に作用する薬物 血液に作用する薬物 免疫と薬物			
8	各論5 悪性腫瘍と薬物 代謝性疾患治療薬			
9	各論6 炎症と薬物 痛みと薬物 局所麻酔薬			
10	各論7 抗感染症薬 消毒に使用する薬物			
11	各論8 う蝕予防薬 歯内療法薬 歯周疾患治療薬			
12	各論9 顎口腔粘膜疾患と薬物 和漢薬			
13	その他の疾患1 皮膚障害 視覚障害 水分/電解質/カロリーー			
14	その他の疾患2 性・生殖機能障害 泌尿器・生殖腺機能障害			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	薬の基礎的な知識、主な疾病の回復を促進する薬に関する基本的理解を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	予習・復習することを望みます。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベージック 薬理学・臨床薬理学	内山靖・藤井浩美 他		医歯薬出版株式会社	
ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学	赤瀬智子・柳田俊彦		メディカ出版	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
情報統計学		講義	上田 博司	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 口腔内からの保健情報の収集方法を説明できる。 2. 歯科疾患の指標について説明できる。 3. 保健情報の分析について説明できる。 4. 情報の保護と倫理について理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	本科目の目的と概要 保健情報と保健統計（1章-1）：保健情報・保健統計とは、保健情報の種類			
2	保健情報と保健統計（1章-2）：保健情報の種類（EBMの手順）、国家統計調査			
3	保健情報と疫学（2章-1）：疫学とは、健康障害の発生要因			
4	保健情報と疫学（2章-2）：疫学の方法論、スクリーニング（疾病と検査との関係）			
5	歯科疾患の指数（3章-1）：数量化と指数について、指数（う蝕）			
6	歯科疾患の指数（3章-2）：指数（歯周疾患、口腔清掃状態）			
7	歯科疾患の指数（3章-3）：指数（不正咬合と歯列不正の指数、歯のフッ素症、その他の歯科保健指標）			
8	保健情報の分析手順（4章-1）：保健情報の収集、調査			
9	保健情報の分析手順（4章-2）：母集団と標本抽出			
10	保健統計の方法（5章-1）：データの特性、記述統計（代表値、散布度、相関）、推定と信頼区間			
11	保健統計の方法（5章-2）：検定、保健情報の多変量解析、その他			
12	保健情報の分析演習（6章-1）：解析と検定の演習			
13	保健情報の分析演習（6章-2）：プレゼンテーション：データの表現			
14	情報の保護と倫理（7章）：情報社会の特性と問題点、情報の開示、個人情報の保護、インターネットと情報倫理			
15	情報統計学（まとめ）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	小テストを通じて各章で学んだ内容、ならびに国家試験に準じた試験を実施する。		
レポート・課題				
小テスト	50%	各章の終了時にその内容の理解度を確認する（全7回）。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保存修復学		講義	神尾 雅之	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 保存修復学分野の診療に際し必要な知識を取得し,各修復法の目的を理解し説明できる。 2. 治療に必要な器材,材料の使用方法についての知識を習得し,説明できる。 3. 修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴を説明できる。 4. 歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯の硬組織疾患 う蝕			
2	歯の硬組織疾患 非う蝕			
3	窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則			
4	修復処置に使用する機材の概要 歯髄保護 ホワイトニング 象牙質知覚過敏症			
5	直接法修復			
6	間接法修復			
7	間接法修復 技工関係			
8	合着及び接着			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	国家試験に準じた試験		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯内療法学		講義	神尾 雅之	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯内療法の対象となる歯髄炎, 根尖性歯周炎について説明できる。 2. 治療の術式、使用器具、使用薬剤について説明できる。 3. 根尖性歯周組織疾患（感染根管）を説明できる。 4. 根管治療に用いる器材の使用法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯髄疾患の分類と症状診断			
2	根尖性歯周疾患の分類と症状診断			
3	歯内療法検査 歯髄疾患治療法 歯髄保存			
4	歯髄除去療法			
5	根管治療法			
6	根管充填 根未完成歯の処置法			
7	外科的歯内療法の種類・適応症とその処置法 外傷歯の治療法			
8	歯内療法における安全対策			

科目名		授業形態	担当教員名	
歯周病学		講義	神尾 雅之	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生士業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯周病の種類と症状を説明できる。		5. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。		
2. 歯周治療の流れを説明できる。		6. 歯周外科手術の介助の概要を説明できる。		
3. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。		7. 口腔機能回復治療の概要を説明できる。		
4. 歯周初期治療の術式と適応症を説明できる。		8. 歯周治療後の再評価ができ、SPTを説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	歯周病の基礎 正常解剖 歯周組織 インプラント周囲組織			
2	歯周病の分類 歯周病とは？			
3	歯周病の原因 ペリオドンタルメディシン			
4	歯周治療① 医療面接 基本的検査			
5	歯周治療② 治療計画立案 治療開始			
6	歯周治療③ 歯周基本治療 歯周外科治療			
7	歯周治療④ 歯周外科治療			
8	歯周治療⑤ 口腔機能回復治療 メインテナンス			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	国家試験に準じた試験		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科補綴学		講義	磯貝 文彦・今川 由香	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科補綴の概要と意義、目的を説明できる。 2. 補綴装置の種類と適応を説明できる。 3. 補綴歯科治療の基礎知識、検査方法を説明できる。 4. クラウン・ブリッジ治療の概要と流れ、診療補助、併発症とその対処法を説明できる。		5. プロビジョナルレストレーションの概要を説明できる。 6. プロビジョナルレストレーションの製作方法を実習する。 7. 有床義歯治療の概要と流れ、診療補助、併発症とその対処法を説明できる。 8. インプラント治療の概要と流れ、診療補助、併発症とその対処法を説明できる。		9. 特殊な口腔内装置を用いる治療の概要と流れ、診療補助、併発症とその対処法を説明できる。 10. 補綴歯科治療における器材の管理を理解している。 11. 歯科補綴における歯科衛生士の役割を理解している。
授業計画				
回	内容			
1	歯科補綴の概要、補綴歯科治療の意義と目的			（磯貝）
2	補綴歯科治療の方法と補綴装置、補綴歯科治療における歯科衛生士の役割			（磯貝）
3	補綴歯科治療の基礎知識			（磯貝）
4	補綴歯科治療における検査			（磯貝）
5	クラウン・ブリッジ治療			（磯貝）
6	クラウン・ブリッジ治療			（磯貝）
7	プロビジョナルレストレーション製作実習①		基礎実習室	（今川）
8	プロビジョナルレストレーション製作実習②		基礎実習室	（今川）
9	有床義歯治療～全部床義歯治療～			（磯貝）
10	有床義歯治療～部分床義歯治療～			（磯貝）
11	インプラント治療			（磯貝）
12	インプラント治療			（磯貝）
13	特殊な口腔内装置を用いる治療			（磯貝）
14	補綴歯科治療における器材の管理、歯科衛生士の重要性（主に補綴歯科治療において）			（磯貝）
15	歯科補綴学全体の復習			（磯貝）
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%	補綴治療の基礎知識が理解できているかを評価する		
レポート・課題	10%	実習内容のレポートを評価する（別途評価基準を示す）		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
小児歯科学		講義	佐々木 有美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生士業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療の理解を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる。 2. 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 3. 歯列および咬合の正常発育とその障害を説明できる。 4. 乳歯と幼若永久歯の解剖学特徴を説明できる。 5. 小児う蝕の特徴, う蝕予防および進行抑制法を説明できる。 6. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法、歯内療法を説明できる。 7. 小児の口腔外科疾患と外傷の種類と処置法を説明できる。 8. 咬合誘導の概念、保険装置の種類、適応症を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	小児歯科学概論（p.2-5）：[小児歯科学とは] 小児の心身の発育（p.6-11）：[発育の概念と分類、発育状態の評価、生理的年齢]			
2	小児の心身の発育（p.11-19）[器官の発育、精神発達] 小児の生理的特徴（p.20-22）[バイタルサイン、薬剤処方]			
3	顔面頭蓋の発育（p.23-30）：[脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化、脳頭蓋の発育の特徴、顔面頭蓋の発育の特徴、発育の評価法] 歯の発育とその異常（p.31-39）：[乳歯・幼若永久歯の特徴、歯の形成、歯の形成異常]			
4	歯の発育とその異常（p.39-42）：[歯の萌出] 歯列と咬合の発育とその異常（p.43-52）：[歯列・咬合の発育、歯列・咬合の異常]			
5	小児の歯科疾患（p.53-65）：[小児のう蝕、小児の歯周疾患、小児に認められる口腔軟組織の異常]			
6	小児虐待（p.66-72）：[小児虐待とは、虐待の起こる背景、歯科衛生士からのアプローチ] 小児期の特徴と歯科の問題点（p.74-77）：[成人に対する小児のとらえ方、小児期の特徴と特徴的歯科疾患] 患者との対応法（p.78-86）：[患者・保護者との関係、診療室における小児の態度と行動、子どもへの対応法、歯科治療時の対応法]			
7	患者との対応法（p.86-95）：[行動変容法] 小児歯科における診療体系（p.96-105）：[特徴、原則、診査・診断]			
8	小児歯科における診療体系（p.105-110）：[養育者教室]			
9	小児歯科における診療体系（p.110-124）：[麻酔法、ラバーダム、隔壁、歯冠修復]			
10	小児歯科における診療体系（p.124-137）：[小児の歯内療法]			
11	小児における診療体系（p.137-152）：[小児の外科処置、咬合誘導、フッ化ジアンミン銀]			
12	小児における診療体系（p.152-153）：[リコール] 障害児の歯科治療（p.154-162）：[障害児に対する歯科的対応、障害とその特徴]			
13	障害児の歯科治療（p.162-168）：[障害児への対応、小児の摂食・嚥下障害] う蝕予防（p.169-185）：[ブラークコントロール、フッ化物の利用、フィッシャーシーラント]			
14	う蝕予防（p.184-190）：[代用糖、食事指導] 小児の保健管理（p.191-199）：[3歳まで齲蝕を経験させない、第一大臼歯をう蝕にしない] 診療室と機材の管理（p.200-204）：[診療室の管理、器材の管理]			
15	これまでのまとめと授業の復習、テスト対策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	教科書を基準に過去の国家試験問題の理解が必要。マークシート形式での解答。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	授業始めに前回授業の復習テスト。授業ノートとプリント提出。授業態度。（評価基準は別途示す）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
2～14回は、授業の始めに前回の授業内容についてチェックテストを実施します。 成績に反映されますので前回授業の復習は必ず行ってください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
障害者歯科学		講義	三木 貴子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な障害の概念・福祉制度・障害の種類・歯科的特徴・障害児者の対応を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 障害の概念が説明できる。		4. 障害者歯科における医療安全を説明できる。		
2. 障害の種類・歯科的特徴、歯科保健医療の留意点を説明できる。		5. 障害児の保健・医療・福祉制度を説明できる。		
3. 障害者の歯科治療を説明できる。		6. 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	障害者および障害者歯科の定義、ノーマライゼーション、福祉制度の仕組み			
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患について(神経発達症群・運動障害・音声言語障害・精神障害)			
3	障害のある人への行動調整(コミュニケーションの方法・行動療法)			
4	障害のある人への行動調整(体動コントロール・薬物的行動調整)			
5	障害者本人および介助者による口腔衛生管理			
6	障害者歯科におけるリスクと対応			
7	摂食嚥下リハビリテーションについて			
8	障害者歯科と地域医療連携について			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	記述（穴埋め）		
レポート・課題				
小テスト	20%	記述（穴埋め）		
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
あなたの歯科医院に障害のある患者さんが来院したら？		小笠原正・石井里加子・梶美奈子・寺田ハルカ	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科矯正学		講義	油谷 征彦	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状及び治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる。 2. 成長に伴う正常咬合を説明できる。 3. 不正咬合の原因と種類を列举できる。 4. 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる。				
5. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。 6. 矯正装置の種類、構造および機能を説明できる。 7. 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。 8. 治療前、治療中、保定期間の口腔健康管理法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	1編1章 矯正歯科治療の概要			
2	1編2章 成長・発育			
3	1編3章 正常咬合と不正咬合			
4	1編4章 矯正歯科診断			
5	1編5章 矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定			
6	1編6章 矯正装置			
7	Ⅱ編1章 上下顎の前後的関係の不調和			
8	Ⅱ編2章 上下顎の前後的関係の不調和（過蓋咬合・開咬）			
9	Ⅱ編3章 成人矯正			
10	Ⅱ編4章 口腔学顔面の整形異常と変形			
11	Ⅱ編5章 歯の埋伏と歯数の異常			
12	Ⅱ編6章7章 矯正歯科治療時のトラブルへの対応・健康保険が適応される矯正歯科治療			
13	Ⅲ編1章2章 矯正歯科診断にかかわる業務・矯正歯科診療時の業務			
14	Ⅲ編3章 矯正歯科患者と口腔保険管理			
15	Ⅲ編4章5章 口腔筋機能療法・器材、資料、文書の管理			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	評価基準は別途示す		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯周病予防処置論Ⅱ		講義・演習	藤澤 仁美・三村 明美・今川 由香・中谷 綾子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. キュレットタイプスケーラーの操作法を説明できる。 5. 歯面研磨材の種類と用途を説明できる。 2. シャーピング方法の説明ができる。 3. 歯面研磨の意義を説明できる。 4. 歯面研磨材の種類と用途を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯面研磨 講義			基礎実習室
2	歯面研磨			基礎実習室
3	歯面研磨			基礎実習室
4	プロービング			臨床実習室
5	シックルスケーラー シャーピング			基礎実習室
6	ウェルテック（予防歯科実践セミナー）			基礎実習室
7	ウェルテック（予防歯科実践セミナー）			基礎実習室
8	グレーシーキュレット操作方法			基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載	必要に応じてプリントを配布する			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯周病予防処置演習Ⅱ		演習	藤澤 仁美・三村 明美 今川 由香・中谷 綾子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. シックルタイプスケーラーを操作できる。 2. キュレットタイプスケーラーを操作できる。 3. 歯面研磨ができる。 4. 口腔内でプロービングができる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯面研磨 上顎		第3講終了後	臨床実習室
2	歯面研磨 上顎			臨床実習室
3	歯面研磨 下顎			臨床実習室
4	歯面研磨 下顎			臨床実習室
5	プロービング 全顎 オリエンテーション		第4講終了後	基礎実習室
6	プロービング 上顎			臨床実習室
7	プロービング 上顎			臨床実習室
8	プロービング 下顎			臨床実習室
9	プロービング 下顎			臨床実習室
10	グレーシーキュレット 操作法① 上下前歯部		第8講終了後	基礎実習室
11	グレーシーキュレット 操作法① 上下前歯部			基礎実習室
12	グレーシーキュレット 操作法② 上顎左右臼歯部			基礎実習室
13	グレーシーキュレット 操作法② 上顎左右臼歯部			基礎実習室
14	グレーシーキュレット 操作法② 下顎左右臼歯部			基礎実習室
15	グレーシーキュレット 操作法② 下顎左右臼歯部			基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	80%	評価基準は別途示す		
小テスト				
その他	20%	安全に配慮し実習に取り組むことができるかを評価する。（評価基準は別途示す）		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載	必要に応じてプリントを配布する			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導論Ⅱ		講義・演習	中谷 綾子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
健康支援として、人々の歯、口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術を習得する事を目的とする。各ライフステージに応じた口腔衛生指導についての知識、技術を習得する。				
授業の到達目標				
1. 口腔衛生管理（口腔ケア）に用いる清掃用具の特徴を説明できる。 2. 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。 3. 各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる。 4. 各ライフステージ別の口腔衛生指導を説明できる。 5. 各ライフステージ別の食生活指導を説明できる。 6. 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 7. 口腔機能管理について説明できる。 8. 対象者に合わせた口腔衛生管理に用いる清掃用具の選択および使用ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	術者磨きの相互実習 臨床実習室			
2	術者磨きの相互実習 臨床実習室			
3	口腔ケア用品、口臭症、口腔機能の把握		P. 119～125、P. 254～265	
4	ライフステージ別保健指導・妊産婦期1		P. 303～311	
5	ライフステージ別保健指導・妊産婦期2		P. 303～311	
6	ライフステージ別保健指導・乳児期1		P. 312～321	
7	ライフステージ別保健指導・乳児期2		P. 312～321	
8	ライフステージ別保健指導・幼児期1		P. 321～329	
9	ライフステージ別保健指導・幼児期2		P. 321～329	
10	ライフステージ別保健指導・学齢期		P. 329～337	
11	ライフステージ別保健指導・思春期 青年期		P. 337～344	
12	口腔機能管理指導		P. 266～270	
13	ライフステージ別保健指導・成人期		P. 344～354	
14	ライフステージ別保健指導・高齢期		P. 354～368	
15	ライフステージ別保健指導・高齢期		P. 354～368	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%			
レポート・課題	10%	課題への取り組み、内容进行评估する（評価基準は別途示す）		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
新歯科保健指導ハンドブック		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科診療補助論Ⅱ		講義・演習	三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科診療補助について理解し実践するために、共同動作と歯科材料の取り扱いを修得する。歯科診療補安全に行うために器具の取り扱いを修得する。				
授業の到達目標				
1. 歯科材料の用途、特徴が説明できるようになる。 2. ラバーダム防湿の目的と用途を説明できる。 3. 保存修復時の診療補助を理解する。 4. 歯内療法時の診療補助を理解する。 5. 歯科矯正時の診療補助を理解する。 6. 小児歯科治療時の診療補助を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	保存修復時の診療補助			基礎実習室
2	合着材・接着剤			基礎実習室
3	仮封材・仮着材			基礎実習室
4	歯科診療で使用する歯科材料：その他の印象材			基礎実習室
5	ラバーダム防湿法			基礎実習室
6	歯周外科治療時の診療補助			基礎実習室
7	歯科矯正の時の診療補助			基礎実習室
8	歯内療法時の診療補助・小児歯科治療時の診療補助			基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎		竹澤保政	永末書店	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科診療補助演習Ⅱ		演習	三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科診療補助について理解し実践するために、共同動作と歯科材料の取り扱いを修得する。歯科診療補安全に行うために器具の取り扱いを修得する。				
授業の到達目標				
1. 歯科材料の用途、特徴が説明できるようになる。		5. 印象材の特徴が説明できる。		
2. 歯科材料の取り扱いができる。		6. 印象材の取り扱いができる。		
3. ラバーダム防湿の目的と用途を説明できる。		7. 診療補助の器具の名称、用途が説明できる。		
4. ラバーダム防湿を実施できる。		8. 口腔内で印象採得ができる。		
授業計画				
回	内容			
1	歯科材料の取り扱い：歯間分離、コンポジットレジン			基礎実習室
2	歯科材料の取り扱い：合着材・接着剤			基礎実習室
3	歯科材料の取り扱い：仮封材・仮着材			基礎実習室
4	歯科材料の取り扱い：隔壁法			基礎実習室
5	歯科材料の取り扱い：隔壁法			基礎実習室
6	その他の印象材			基礎実習室
7	ラバーダム防湿法			基礎実習室
8	歯科材料の取り扱い：コーパック 歯周外科器具			基礎実習室
9	矯正器具			基礎実習室
10	アルジネート印象 相互実習			基礎実習室
11	アルジネート印象 相互実習			基礎実習室
12	歯内療法器具 1			臨床実習室
13	歯内療法器具 2			臨床実習室
14	歯内療法器具 3			基礎実習室
15	小児歯科器具			基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	評価基準は別途示す		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎		竹澤保政	永末書店	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科材料学		講義	安岡 大介・三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。歯科材料学がひとつの独立した科目ではなく、歯科診療補助論や保存学、小児歯科、歯科矯正、補綴学など数多くの分野に深く関連していることに気づき、理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科材料の基礎知識が説明できる。 2. 合着材、接着剤、仮着材の種類と基本的性質が説明できる。 3. 印象材、石膏の種類と用途、一般的性質が説明できる。 4. ワックス、金属、陶材、その他の歯科材料について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯冠修復材料・仮封材・暫間修復材		基礎実習室	（安岡）
2	実習		基礎実習室	（安岡）
3	合着材・接着材と仮着用セメント		基礎実習室	（安岡）
4	新しい歯科材料・他の歯科治療用材料		基礎実習室	（安岡）
5	印象材		基礎実習室	（三村）
6	印象材		基礎実習室	（三村）
7	模型用材料		基礎実習室	（三村）
8	ワックス、金属		基礎実習室	（三村）
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	75%	安岡35%、三村40%		
レポート・課題	15%	安岡5%、三村10%（基準は別途示す）		
小テスト	5%			
その他	5%	安岡5%（基準は別途示す）		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
世界一わかりやすい歯科材料入門		片岡有・川島貴重	デンタルダイヤモンド社	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地・臨床実習Ⅰ		実習	三村 明美・藤澤 仁美 今川 由香・中谷 綾子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間 （ 1 単位）		回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
1. 歯科診療所における歯科診療の流れの見学実習を目的する。 2. 今後の学習意欲の向上につなげる事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科診療の流れを知る。 2. 臨床現場の歯科衛生士の役割を知る。				
授業計画				
回	内容			
1	実習ガイダンス			
	歯科診療所見学実習			
	車いす体験実習			
	振り返り			

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科衛生学演習Ⅱ		講義・演習	中谷 綾子・三村 明美・ 藤澤 仁美・今川 由香	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
臨床実習を行うにあたって、必要な心得、規定を学ぶ。チーム医療を理解する。				
授業の到達目標				
1. 臨地・臨床実習に必要な基礎知識を身につける。 2. IPEに参加し、多職種を知る。 3. 自分の職種を説明できる。 4. 医療倫理に基づく基本的マナーを習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	IPE：オリエンテーション			
2	IPE：職種紹介 1			
3	IPE：職種紹介 2			
4	IPE：職種紹介 3			
5	IPE：グループワーク			
6	IPE：グループワーク ポスター作成			
7	IPE：発表準備 ポスター発表			
8	IPE：優秀ポスター発表と振り返り			
9	臨地・臨床実習の身だしなみ			
10	臨地・臨床実習のオリエンテーション			
11	臨地・臨床実習のレポートの書き方			
12	臨地・臨床実習Ⅰに向けての心構え			
13	臨地・臨床実習Ⅰの振り返り			
14	う蝕セミナー ライオン			
15	う蝕セミナー ライオン			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	評価基準は別途示す		
小テスト				
その他	50%	授業への取り組みで評価する（評価基準は別途示す）		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
新人歯科衛生士・歯科助手 院内マニュアル第2版		江澤庸博	医歯薬出版株式会社	
歯科衛生士のための歯科用語小辞典 基礎編 改訂第2版		織田正豊 他	クインテッセンス出版	
歯科衛生士のための歯科用語小辞典 臨床編 改訂第2版		柏 豪洋 他	クインテッセンス出版	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				